

平成28年7月27日

# 教育委員会第7回定例会記録

石巻市教育委員会

## 教育委員会第7回定例会記録

◇開会年月日 平成28年7月27日（水曜日）午後 3時01分開会  
午後 3時55分閉会

◇開催の場所 第3・第4委員会室

◇出席委員 5名

委員 長 阿部 邦英 君	委員 (委員長職務代行者) 津嶋 ユウ 君
委員 今井 多貴子 君	委員 杉山 昌行 君
教育 長 境 直彦 君	

◇欠席委員 なし

◇説明のため出席した者の職氏名

事務局 長 草刈 敏雄 君	事務局次長 (震災復興担当) 前原 義久 君
教育総務課 長 佐々木 貞義 君	学校教育課 長 平塚 隆 君
学校安全推進課 長 伊藤 雄 君	学校管理課 長 三浦 司 君
生涯学習課 長 兼 複合文化施設開設準備室 長 武山 専太郎 君	体育振興兼 課長補佐 (運動事務所) 箕浦 哲也 君
学校施設 長 高橋 正能 君	

◇書記

教育総務課 長 補佐 石井 透公 君	教育総務課 長 加藤 陽子 君
教育総務 長 久光 雄介 君	

◇付議事件

一般事務報告

- ・教育長報告

- ・平成29年石巻市成人式について

報告事項

報告第5号 平成29年度使用教科用図書の採択について

審議事項

第32号議案 石巻市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

その他

午後 3時01分開会

○委員長（阿部邦英君） それでは、これから平成28年第7回定例会を開会いたします。  
本日の会議ですが、欠席委員はありません。

---

#### 会議録署名委員の指名

○委員長（阿部邦英君） それでは、会議録署名委員の指名を行います。  
本日の会議録署名委員は、杉山委員にお願いします。  
よろしく願いいたします。

---

#### 教育長報告

○委員長（阿部邦英君） それでは、本日の案件に入ります。  
本日の案件は、一般事務報告が2件、報告事項が1件、審議事項が1件及びその他となっております。

それでは、一般事務報告に入ります。

教育長報告について、教育長から報告をお願いいたします。

○教育長（境 直彦君） それでは、ご報告申し上げます。

各学校は、先週の20日に第1学期の終業式を終えまして、36日間の夏季休業に入っております。

中総体関係、県大会で、今のところ、団体では桃生・稲井中学校合同チームがソフトボールで優勝しまして、東北大会出場を決めております。個人では、ソフトテニスの個人、それから陸上、柔道関係で上位が東北大会に出場ということになっております。なお、陸上では、全国大会の標準記録を3名既に突破しておりまして、来月行われる陸上の全国大会に出場することが既に決まっております。

続きまして、夏季休業中の派遣事業についてですが、石巻地区広域行政事務組合の事業でありますおにぎり大使派遣事業では、今日から8月2日まで、オーストラリア、シドニー近郊での派遣となり、2市1町から32名の中学生が参加しております。今朝、出発式に立ち会いまして、全員元気に出発しております。

次に、市の総務部の事業であります石巻市非核平和推進人材育成事業では、市内中学生6名が参加し、来月5日から3日間の日程で広島市に出かけます。6日に広島市で開催されます平

和記念式典への参列、平和記念資料館の見学等の研修を行ってまいります。

教育委員会関係の主催事業、夏季休業中ですが、3つ報告をいたします。この後、各課長から詳しくはお話し申し上げますが、概略をお話しします。

1つ目が、子どもの未来づくり事業として、8月6日土曜日に桃生公民館でフォーラムを開催いたします。午前中は、市内小・中学校代表36名による「夢を語ろう！未来のために！」というテーマのもとにディスカッションを行います。午後からは、南極観測隊員であります鯉田淳氏から「白い大地で見たもの」という演題で講演をいただきます。

2つ目は、昨年まで学校防災教育講演会を開催しておりましたが、今年度は学校防災の取組みを発信するために、学校防災フォーラムを、8月8日月曜日、青葉中学校を会場に開催いたします。内容としましては、午前中は青葉中学校が地域と取り組んでいる防災訓練の実際、午後からは市内小・中学校で取り組んでいる復興防災マップの実践発表、パネルディスカッションでは地域と学校、行政が連携した防災体制のあり方等を話し合っていきます。

3つ目は、いじめサミット2016についてです。8月18日木曜日、桃生公民館で、市内中学校の代表生徒により開催されます。

次に、教育委員会関係です。

今月15日、7月15日に松島町で東北六州市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会がありました。教育委員の皆さんに参加していただき、大変有意義な研修でありました。来年は秋田県で開催される予定となっております。

8月2日に、宮城県教育委員会と市町村教育委員会との県北、北部地区の教育懇話会が登米合庁で開催されます。阿部委員長と私が出席する予定となっております。

以上で報告を終わります。

○委員長（阿部邦英君） それでは、ただいまの報告に対しまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。

ございませんか。

（発言する者なし）

---

#### 平成29年石巻市成人式について

○委員長（阿部邦英君） それでは、次に入ります。

平成29年石巻市成人式について、生涯学習課長から報告をお願いします。

○生涯学習課長兼複合文化施設開設準備室長（武山専太郎君） それでは、私から平成29年石

巻市成人式についてご説明申し上げますので、表紙番号2の1ページをご覧ください。

②の目的でございますが、成人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますことを目的に成人式を行うものであります。

④の市民参加の有無でございますが、毎年、対象である成人者の中から実行委員会を組織し、当日の受付、司会、アトラクションの企画運営などを行っております。実行委員会につきましては、各地区ごとに組織する予定でございます。

⑤の主な内容でございますが、1の日程及び会場につきましては、1月5日木曜日の午後が桃生地区、1月8日日曜日の午前が河南地区と北上地区、午後が石巻、河北、雄勝、牡鹿の各地区で、会場はそれぞれ記載のとおりでございます。対象者数は、7月1日現在の住民登録者で、1,439名でございます。

次に、2ページをご覧ください。

2の開催内容でございますが、(1)の対象者は、平成8年4月2日から平成9年4月1日までに生まれた者で、石巻市に住所を有する者及び就職、進学等で石巻市以外に住所を有しているが、帰省して参加を希望する者でございます。

(2)の会場につきましては、旧市町単位の7地区で、1ページに記載のとおりでございます。

(3)式典内容につきましては、成人式としての式典のほか、各地区ごとに趣向を凝らしたアトラクションを実施しておりますが、これにつきましては、今後、実行委員会で検討してまいります。

次に、⑥でございますが、(1)事業の効果といたしましては、成人者本人の市民意識や社会人としての自覚の向上が図られると考えております。

(2)の予算につきましては、本年度は170万2,000円を措置しております。これは、会場設営費や開催通知などの通信運搬費、消耗品などに係るものでございます。

⑦の他の自治体の政策との比較検討でございますが、東松島市、女川町ともに1月8日の予定でございます。

⑧の今後の予定でございますが、市報9月1日号及び市のホームページに成人式の開催及び実行委員の募集について掲載予定でございます。案内通知は12月5日ごろに発送予定としております。委員の皆様方にもご案内いたしますので、ぜひご出席の上、新成人へのお祝いと励ましをよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（阿部邦英君） ただいまの報告に対して、ご質問ございましたらお願いいたします。  
特にございませんか。

（発言する者なし）

---

#### 報告第5号 平成29年度使用教科用図書の採択について

○委員長（阿部邦英君） なければ、次に、報告事項に入ります。

報告第5号 平成29年度使用教科用図書の採択について報告を受けたいと思います。

学校教育課長から説明をお願いいたします。

○学校教育課長（平塚 隆君） 表紙番号1の1ページをご覧いただきたいと思います。

平成29年度使用教科用図書の採択につきまして、石巻市教育委員会教育長事務委任等に関する規則第4条第1項の規定により専決いたしましたので、同条第3項の規定により報告いたします。

平成29年度使用教科用図書の採択につきましては、石巻採択地区協議会規約に則りまして、小・中学校の特別支援学級用図書の採択事務を行い、7月13日の採択協議会で採択決定いたしました。

3ページから5ページをご覧願います。

こちらは、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書、いわゆる一般図書と言われるものであります。子供の障害の程度に応じまして、この中から年度ごとに使用することが可能であります。この一般図書は毎年採択することになっておりまして、今回新たに加わった図書は、網かけしてあるもので、小学校の生活のナンバー28番、中学校では社会のナンバー7番、8番、美術のナンバー17番の計4冊でございました。

次に、採択の経過についてご報告いたします。

6月10日、協議会役員会を行い、今年度の教科書採択の方針、日程等を協議いたしました。6月30日、7月1日の2日間にわたりまして、調査委員会を行いました。石巻市、東松島市、女川町の小・中学校の教員から選出されました調査員が、特別支援教育の小学校、中学校の部会に分かれて調査研究を行いました。その後、7月13日、石巻採択地区協議会を行いました。調査委員会の各部会の代表から調査報告を受けるとともに、市内各小・中学校から提出された採択希望、2市1町教育委員会の協議結果をもとに採択委員が協議し、決定いたしました。

結果につきましては、2ページの写しのとおり、7月14日に石巻採択地区協議会長から石巻地区内の各教育委員会、教育長宛てに通知が来ております。さらに、各地教委から各学校に通

知され、現在は平成29年度使用教科書の需要数報告の手続が行われているところでございます。

以上、報告申し上げます。

○委員長（阿部邦英君） ただいまの報告に対しまして、ご質問等ありましたらお願いいたします。

ございませんか。

（発言する者なし）

---

### 第32号議案 石巻市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

○委員長（阿部邦英君） それでは、ないようでしたら、次に審議事項に入ります。

第32号議案 石巻市学校給食センター運営委員会委員の委嘱についてを議題といたします。

学校管理課長から説明をお願いいたします。

○学校管理課長（三浦 司君） ただいま上程されました第32号議案 石巻市学校給食センター運営委員会委員の委嘱についてご説明申し上げますので、表紙番号1の6ページをご覧ください。

石巻市学校給食センター運営委員会委員は、石巻市学校給食センター条例第4条の規定により、学校給食センターの運営を適正かつ円滑に行うため、教育委員会の諮問機関として石巻市学校給食センター運営委員会を設置することとし、同条例第5条の規定により、委員は学識経験者、関係学校長、児童・生徒の保護者及び関係行政機関の代表者20名以内で組織することとし、教育委員会が委嘱することとなっております。

本案は、学識経験者として委嘱している1名の委員について、組織の役職退任により、当該機関より後任者を新たな後任委員としたい旨通知がありましたことから、欠員候補者1名の委嘱について議決を得ようとするものでございます。なお、委員の任期は、平成28年8月1日から前任者の残任期間である平成29年6月30日まででございます。よろしくご審議のほど願い申し上げます。

○委員長（阿部邦英君） ただいまの説明に対しまして、ご質疑等ございましたらお願いいたします。

津嶋委員。

○委員（津嶋ユウ君） 2番目に委員の方の氏名があるんですが、佐久間実香さんという学校医の方ですね。

○学校管理課長（三浦 司君） はい。



- 委員（津嶋ユウ君） このお医者さんは、専門は何の方なんでしょうか。
- 学校管理課長（三浦 司君） 佐久間眼科小児科医院のお医者さんです。
- 委員（津嶋ユウ君） 眼科小児科。どちらなんでしょうか。
- 学校管理課長（三浦 司君） 小児科のお医者さんです。
- 委員（津嶋ユウ君） 小児科のお医者さんですか。それなら。給食センターなので、できれば眼科より小児科がいいなと思いましたが。わかりました。
- 委員長（阿部邦英君） ほかにございませんか。
- （発言する者なし）
- 委員長（阿部邦英君） それでは、ないようでしたら、第32号議案 石巻市学校給食センター運営委員会委員の委嘱については、原案のとおり決することとしてよろしいでしょうか。
- （「はい」との声あり）
- 委員長（阿部邦英君） それでは、第32号議案については原案のとおり可決いたします。
- 

#### その他

- 委員長（阿部邦英君） これで審議事項を終了し、その他に入ります。
- 始めに、委員方から何かありましたらお願いいたします。
- ございませんか。
- （発言する者なし）
- 委員長（阿部邦英君） それでは、各課長方からお願いいたします。
- 学校安全推進課長。
- 学校安全推進課長（伊藤 雄君） お手元の資料の、平成28年度石巻市学校防災フォーラムについて、私から簡単にご説明させていただきます。
- 先ほどもあったんですが、今年初めてこれを実施するというので、ただいま計画をしているところでございます。目的は資料に記載しておりますが、特に、東日本大震災から5年3か月が経過して、今までやってきた防災教育の中の、特に避難訓練をぜひ対象の市内の先生方、それから市外の先生方にも来て見ていただきたいという思いがございました。今のところ、市外の先生では、53名の方の申込みがございます。それから、市内の方は、防災関係の先生方ということで、最低61名の参加を見込んでおります。
- それから、後援といたしまして、東北大学災害科学国際研究所防災教育国際協働センターの先生方にいろんな意味で震災後お世話になっております。今回も、パネルディスカッションな

ども含めてお世話になる予定です。

このフォーラムの一つの特徴といたしましては、青葉中学校を会場とした避難訓練を実際に来た先生方に見ていただきたいと考えております。月曜日ですので、なかなか仕事で参加できないという方もいるんですが、地域と学校でつくっています地域防災連絡会で、何回か連絡調整し、実施するというのでただいま計画しております。

それから、その中で、今、石巻市として、我々としては、中学生が避難所の中で避難民としてだけではなくて、中学生が運営できる、中学生が活躍できることはないだろうかということで、いち早く青葉中学校で、中学生、生徒が参加した取組を行っておりました。その辺のところも発信できていければいいのかなと考えております。

それから、復興・防災マップの取組について、これも、安全マップだけではなくて、市内のいろんな復興が今行われています。それから、この地域の防災マップ、復興マップをつくるに当たって、過去の災害がどのようにあったのかというようなところも、歴史的なところも勉強しながら、「だからこの辺が低くてこういうふうになっている。」とか、地域的な、地理的なことも含めてこの防災マップに落とし込んでいければと考えております。

それから、資料裏面になりますが、プラス・アーツという東京のNPOがあるのですが、ここでは、いろんな防災研修会のグッズなり、いろんな事業をやっております。このプラス・アーツさんと協力して、実際に避難訓練はやるんだけど、その後どういうふうなところを講習会といいますか、やったほうがいいのかと、研修会をやったほうがいいのかというところが何件かありまして、その辺のところもご紹介できればと考えております。

それから、あとは3時から最後にパネルディスカッションを計画しているのですが、パネリストとしては、山形大学の村山先生、東北大学の佐藤健先生、コーディネーターを同じく東北大学の桜井愛子先生に、それから町内会連合会の会長の吉田さん、それから住吉中学校の宍戸校長先生、会場校青葉中学校の平塚真一郎教頭先生、それから石巻市の危機対策課の佐藤課長にも参加していただいて、地域と学校と行政が連携した防災体制ということについていろいろ意見を伺いたいと考えております。

何せ今年初めての行事なものですから、今後これをもう少し広げていけるように頑張りたいなど、ただいま準備しているところでございます。

以上です。

○委員長（阿部邦英君）　ただいまの学校安全推進課からの平成28年度石巻市学校防災フォーラム開催要項について、何かご質問がある方、お願いいたします。

ございませんか。

○委員（今井多貴子君） 教育委員としては、これは自由参加になるわけですか。

○委員長（阿部邦英君） 教育委員としてはどうでしょうか。

○学校安全推進課長（伊藤 雄君） もし参加していただけるのであれば、それは全然構いませんので、どうぞよろしくお願いします。

○委員（今井多貴子君） 自由に行って構わないんですね。

○学校安全推進課長（伊藤 雄君） はい。

○委員（今井多貴子君） わかりました。

○委員長（阿部邦英君） ほかにございませんか。

津嶋委員。

○委員（津嶋ユウ君） 実践発表、各学校4校からあるんですけども、これは児童・生徒がやるのでしょうか、それとも教員がやるのでしょうか。

○学校安全推進課長（伊藤 雄君） すみません。児童・生徒が行うことで予定しております。当日はバスで児童を送迎しまして、今のところだとスクリーンを使って発表するというような計画でおります。

以上です。

○委員（津嶋ユウ君） もう一点いいですか。

防災訓練の実際を、青葉中学校の生徒たちの動きを見せてもらうということなのですが、地域との連携というお話もあったんですが、地域の方たちも参加するのでしょうか。

○学校安全推進課長（伊藤 雄君） 10月23日に市の総合防災訓練が今年もあるんですが、それを去年、おととしで見させていただいて、そこに中学生も参加していい動きをしていたということがあって、それをイメージしてぜひということになっておりました。ただ、日曜日にこれをなかなかやるというのは難しいので、月曜日ということになってしまって、地域の方々としては、日曜日にやるよりは参加は大分減るだろうと。でも、できるところは協力しますよというお話はいただいております。そういうことでやっております。

それから、当日は、あとは避難してくる人の中には上釜地区にあるグラウンドを使っているスポーツ少年団、サッカーの少年団がいるんですが、その上釜地区のグラウンドを使うときは防災のこともセットになって使えますよということになっているんだそうです。それで、当日はそういうスポーツ少年団の子供たちも参加するという計画ではおります。

○委員長（阿部邦英君） ほかにございませんか。

(発言する者なし)

○委員長（阿部邦英君） なければほかの課長方からありませんか。

学校管理課長。

○学校管理課長（三浦 司君） それでは、私から、資料に学校給食センターの概要というのがあると思うんですけども、いよいよ8月に石巻市東学校給食センターが開所いたしますので、その開設に伴って、全部のセンターの概要について改めてご説明させていただきたいと思えます。

これまで、学校給食センターにつきましては、住吉、河北、河南、牡鹿、石巻西の5センターで稼働しておりましたが、建設を進めておりました東センターが完成いたしまして、2学期から稼働することとなりまして、それにあわせて牡鹿と石巻西センターが廃止されます。8月からは、住吉、河北、河南、東の4センターで学校給食を提供してまいります。

各学校給食センターの提供給食数等は、住吉センターは受配校が6校で1,903食。そして、新設されます東センターは受配校が26校、当初、学校数としては26校でしたが、うち1校、荻浜小学校が休校しておりますので、実質的には25校で6,631食。河北センターは受配校が16校、それから2つの幼稚園で1,942食。河南センターが受配校が8校で1,644食。全体で55校、2つの幼稚園に1万2,120食を提供する予定としております。なお、それぞれのセンターの配置職員数及び受配校等につきましては、こちらの表にあるとおりであります。

次に、新設されます東学校給食センターの特色についてご説明させていただきますので、裏面をご覧くださいと思います。

東学校給食センターは、汚染、非汚染区域を明確に区分化しておりまして、配送用コンテナごとの消毒、保管を行うシステムを採用して、本市のセンターでは初めてのドックシェルターの設置などで、徹底した衛生管理が図られる施設となっております。

また、食物アレルギーに対応の専用給食室を備えた給食センターでございまして、東センターの受配校では、本年度の3学期からアレルギー対応給食を実施することとしており、ほかのセンターに対しましても、平成30年度2学期からの提供を予定しておりますが、この時期につきましては、3学期から実施します東センターへの学校給食、アレルギー給食の提供の人数等々を勘案しながら検討してまいりたいと考えてございます。

さらに、最新のエネルギー機器の採用はもとより、発生する食べ残し等の生ごみの重量を減少できる塵芥処理システムを導入しまして、環境に配慮した施設等となっております。

また、そのほかに、提供食数が多いことから、食材の確保や調理機器の活用により、調理時

間の短縮を図るため、小学校と中学校の献立を別々にした1センター2献立を本市の給食センターでは初めて実施することといたしております。

それで、今回、この東センターが開所することによりまして、ほかのセンターの受配校を減らしております。東センターの受配校が25校ということで多くなっております。

これまで、震災後、既存の給食センターでは、サラダやお浸し等の冷たい献立ができておりませんでした。それは、湊給食センターと渡波学校給食センターが被災して、その受配校がほかのセンターに割り振られたことによって、その部分、お浸し等を調理するための機器を撤去していたということがございまして、これまで提供できませんでしたが、今回、東センターが開設されることにより、お浸し、サラダ等をつくる機器の設置が全部のセンターに可能となりましたので、2学期からはお浸しやサラダも全部のセンターから提供することは可能となります。

以上で学校給食センターの概要についてのご説明を終わらせていただきます。

○委員長（阿部邦英君） ただいまの説明に対しまして、ご質問ありましたらお願いします。  
今井委員。

○委員（今井多貴子君） 食物アレルギーに対応した給食の提供のところで、今説明をいただいたんですが、平成28年度の3学期より石巻市東学校給食センターの受配校から対応を開始するというのですが、どれぐらいの人数が28年の3学期から対応できる枠があって、それでもしそこにすき間と言うと変ですけども、あれば、平成30年度の2学期を待たないで全市的なアレルギー対応ができるのでしょうか。空きがあれば、少し対応が早くなるのでしょうか。

○委員長（阿部邦英君） 学校管理課長。

○学校管理課長（三浦 司君） 3学期からのアレルギー対応給食につきましては、2学期にまず東センターの受配校に照会をかけまして集約し、実施が可能かどうかを検討していくという形になるかと思えます。それで、件数的なものはちょっと予想はできないところなんですけれども、東センター受配校のアレルギー対応給食の配送については、今のところ、ほかの一般の給食と同じ配送車両で配送するというようにしております。東センター以外の受配校につきましては、別の配送車両を用意するという計画になっておりますので、28年度中についてはなかなか難しいかなとは思いますが、28年度の実施状況を見ながら、できるだけ早い時期にそのほかの学校についてもやれるように検討をしてみたいと考えてございますので、ご理解いただきたいと思います。

○委員（今井多貴子君） わかりました。

○委員長（阿部邦英君） ほかにございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（阿部邦英君） では、なければ、学校教育課長。

○学校教育課長（平塚 隆君） それでは、私からご説明をさせていただきたいと思います。

左とじをしています資料をご覧いただきたいと思いますが、クリップでとめてある少し厚い資料でございます。できましたら、これをとっていただきまして、3部構成になっておりますので、それぞれについて説明をさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

私からは、平成28年度宮城県学力・学習状況調査の結果概要、それから生徒指導概況、そして先ほど教育長から話がありました8月に開催予定の2つの事業の大きく3点についてご説明をさせていただきたいと思います。

資料をご覧いただきたいと思います。

始めに、平成28年度宮城県学力・学習状況調査の結果概要についてであります。

まず、学力調査についてであります。

今年も、調査した全ての5教科において、小・中学校とも、宮城県平均及び期待値の数値を下回る結果でありました。英語につきましては、県平均及び期待値を下回るものの、その差は年ごとに小さくなってきております。しかし、その他の教科につきましては、残念ながら昨年度よりも差が広がっており、そういう傾向であります。回答形式別に見ますと、ここ数年課題として掲げている記述問題で期待値との乖離が大きく、最小は英語の6.1ポイント、最大は小学校の国語で15.8ポイントでございました。

続きまして、2ページ目をご覧いただきたいと思います。

次に、学校質問紙調査について申し上げます。

この調査からは、学力向上に向けた5つの提言及び石巻市立学校教職員スタンダードに関連する質問項目について肯定的な回答の割合が高く、指導の工夫や改善に向けてよく努力していることが読み取れます。ただ、同じような内容を児童生徒質問紙でも聞いているのですが、それと比較すると、学校の意識と児童・生徒の意識との間で若干の温度差が見られる、そういう部分もございました。

「震災後、授業に集中して取り組めない児童・生徒が多くなったか」という質問につきましては、小学校で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答している割合が激増したのが大きな特徴でありました。昨年は17.2%だったのが、今年は42.8%、25.6ポイントも上

昇しております。

続きまして、児童生徒質問紙調査についてであります。

携帯電話、スマートフォンの所持率は、小学校5年生で約4割、中学2年生で約7割となっています。特に、中学2年生は、県よりも13.2ポイント高い状況であります。学習習慣につきましては、時間の多少はあるものの、小・中学生とも9割以上の児童・生徒が「毎日家庭学習に取り組んでいる」という結果でありました。しかし、小学校において「1時間以上勉強している」児童の割合が県の割合を下回っているという状況でございます。また、休日の勉強時間につきましても、「30分未満」、「全くしない」を合わせると5割を超えており、ある程度まとまった学習時間を確保するという点で課題が見られます。

震災の影響につきましては、家庭学習のやりにくさを挙げる児童・生徒の割合が小・中学生とも減少傾向にあるのに対して、「突然震災を思い出し、授業に集中できないことがある」と回答している児童・生徒の割合が小・中学生とも微増の傾向にあります。また、「突然震災を思い出し、気持ちが落ちつかなくなることがある」と回答している割合につきましても、小学校はここ2年の調査でいずれも23%台と調査初年度の19%台よりも高くなっており、中学生も昨年度との比較で2.6ポイントの増となっております。

今後は、調査結果を受けまして、各学校で分析を進めてもらうことはもちろんのこと、全国学力・学習状況調査の結果とあわせて、より適切、的確に児童・生徒の状況を把握し、これまでの取組の評価、検証と、今後の指導改善に生かしてもらうよう、校長会議等を通してお話をしていこうと思っているところであります。

続きまして、資料の2つ目でございます。平成28年度の第1学期の石巻市立小・中学校の児童生徒状況報告についてであります。

7月分につきましては、8月になってからの報告でありますので、4月から6月の分までの報告となっております。

まず、不登校につきましては、小学校では、昨年度と比較すると若干の減、中学校は逆に微増傾向にあります。ここ数年、石巻市は減少傾向にあり、これも各学校での精力的な取組の成果だと、そのように喜んでおったんですが、昨年、一転して増加に転じました。なぜ増えたのか、そのあたりを教育委員会としてもその原因等について精査しなければならないと、そのように考えているところであります。

いじめにつきましては、本年度は、小学校において認知件数が昨年度から3倍増となっております。これは、いじめの認知に対する意識が高まり、積極的な認知をして早期対応に努めてい

る結果であること及び小学校の低学年で、同一の児童が複数の児童にからかいや冷やかし、悪口などの言葉をかけたことをいじめとして認識した結果であると、そのように捉えているところでもあります。全体としては、学校の適切な対応によって、解消、又は解消に向かっている事案がほとんどですが、解消した事案も含めて、継続して注意深く経過観察が必要だと思っているところでもあります。

暴力行為、虐待関係、それから管理下内外のけがにつきましては、記載させていただいたとおりであります。

大きな3点目、8月に開催予定の事業について、私から2つ紹介させていただきたいと思えます。

先ほど教育長からも話があったとおりですが、1つは、8月6日開催予定の子どもの未来づくりフォーラムについてであります。

今年は3部構成とし、午前中は、石巻市立桜坂高等学校の生徒がファシリテーターとなり、自分の夢、未来の石巻についてのディスカッションを予定しています。第2部では石巻焼きそばの歴史について、それから第3部の講演会では、第52次、そして55次日本南極地域観測隊越冬隊員でいらっしゃいました現石巻市産業部の主幹でいらっしゃいます鯉田淳氏から「白い大地で見たもの」と題してお話をいただく予定であります。

大変遅くなりましたが、本日、委員さん皆様宛ての文書をお手元に用意させていただきましたので、土曜日の開催とはなりますが、ぜひご出席を賜ればと、そのように思っているところでもあります。

それから、2つ目は、8月18日開催予定のSTOP！いじめ石巻市子どもサミット2016についてであります。

この事業については、もう数年、10年近く、10年以上でしょうか、私は石巻の誇るべき事業の一つだと思っているんですが、今年も全ての中学校に呼びかけて、本当に全ての学校の生徒が一堂に会して、いじめ問題に対する各校の取り組みや成果等について紹介し合うとともに、いじめ根絶に向けた話し合い、生徒によるいじめ根絶の推進を図る事業であります。ぜひ、8月18日とはなるんですけれども、お時間のご都合が合えばご参加を賜ればと思っているところでもあります。どうぞよろしく願いいたします。

資料にちょっと間に合わなかったんですけれども、委員さんもお存じのとおり、大暑、7月22日の日にポケモンGOが実は全国一斉に解禁となりました。マスコミ等についても、連日報道されて、今日も実は、東北放送さんだったでしょうか、連絡がありました。石巻市としての



対応はどうなんですかという連絡があつて、教育委員会としても、文科省、それから県教委の報告を受けて、使用の問題とか、あるいは勝手にいろんなところに行って人に迷惑をかけるようなことをしないようにということで学校には通知させていただいているところであります。ご承知おきいただければと思います。

私からは以上でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○委員長（阿部邦英君） 今の学校教育課長の説明について、ご質問等ありましたらお願いいたします。

今井委員。

○委員（今井多貴子君） このいじめサミットの方、STOP！いじめサミットは、給食センターの開所式とぶつかっていますね、完全に。行きたいなと思つても、ちょっと参加が無理ですよ。開所式とぶつかっている、給食センターの。だから、これはまず無理なのかなと思つて、どうなんでしょうか。

○教育長（境 直彦君） 18日は開所式なので、私もいじめサミットの挨拶が終わり次第、開所式に出席します。開所式の方への出席で結構だと思います。

○委員（今井多貴子君） わかりました。

○委員長（阿部邦英君） 津嶋委員。

○委員（津嶋ユウ君） 学力・学習状況調査結果の4枚目の最後の（6）震災の影響のケアのところ、私よくわからないのでお聞きしたいんですけども、丸ポツの2つ目の「震災の影響により愛着に課題を抱える児童生徒云々」とあるんですが、この愛着というのが普通の愛着の意味なのか、この辺のことは私も勉強不足でわからないでいるんだろうかなと思つたんです。そして、「こうした児童生徒の「愛着の穴」をしっかりと埋めてあげる丁寧な対応が一層必要となる。」というので、愛着の穴という様な言葉として言われている内容について教えていただきたいと思つますけれども。

○委員長（阿部邦英君） 学校教育課長、お願いします。

○学校教育課長（平塚 隆君） なかなか震災によって、本来であればしっかりとお父さん、お母さんの愛情を受けてめんこがってもらいながら学校生活を送るべきところなんですけれども、さまざまな特殊な事情を抱えている子供たちもいるということも事実かと思つます。そういう部分での愛情の穴と申しますか、ちょっとその言葉だけがひとり歩きするのは怖いと思つているながら、今、委員さんの話を聞いておつたんですが、そういう形で使わせていただいているところであります。

○委員（津嶋ユウ君） 何か既にそういう言葉は使われているんですか、いろいろ。ではないんですか。課長さんのまとめの、まあ愛情不足みたいなことですね。

○学校教育課長（平塚 隆君） そうですね。

○委員（津嶋ユウ君） 愛着と言うと、何かに、物に対してすごく執着するような意味合いもあるので、何が、前のほうの説明とはちょっと関連がなかったし、わからなかったの。要は、家庭問題で愛情不足によりということですね。

○学校教育課長（平塚 隆君） そのように捉えて頂ければと思っています。

○委員（津嶋ユウ君） わかりました。そういう意味合いですね。ありがとうございます。

○委員長（阿部邦英君） 今井委員。

○委員（今井多貴子君） それに関連してなんですけれども、あえて愛着じゃなくて愛情不足と言わせていただきますけれども、愛情不足から起きる低学年の学習状況がなかなか難しいという現場の先生のお話は聞こえてきていたんですけれども、それに伴って、今、夏休みに入ってから家庭訪問が入っているんですね、小学校。全校ではないでしょうけれども。

それで、学校はばらばらなんですけれども、地区の方からこういう連絡が入っているんですね。震災で両親を亡くした子なのですが、学校の先生の家庭訪問を受けて、愛情不足だと。愛情に対して不足しているので、学校でこういう行動が見られるとはっきり言われてしまって、育てているおじさん、おばさん、おじいさん、おばあさんという関係の方が非常に不安になってしまった。これ以上、どのような愛情をかけたらいいだろうと私に電話が、学校は違いますが、2件入りました。それは全部、家庭訪問の後、どうなんだろうかと連絡が入ったんですね。

そう言われても、そんなふうにはずばつと言われても、担任に言われても、どうにもならないんですね。受ける側も痛みを持っているわけですから。それで、なおさら不安になってしまったということがあるので、ちょっと現場の先生に家庭訪問の際の物言いと言ったらいいのかしら、指導と言ったら、私が言うのも申しわけないんですけれども、そうじゃない、もう少し言い方があるんじゃないかなと。現に連絡が入ったので、ちょっと不安になってあおられてしまうんですね、保護者が。家庭訪問が逆効果になっている。

学校の様子はどうですかと聞かれたとき、例えば、「お父さんお母さんがいなくて不安なことも多々あるんでしょうね。それでも元気に……。」と言うんならまだ、「じゃ、頑張っているんだ学校で。」と安心するが、「授業態度でこんなふうになって落ちつかない。」とか、「不安、愛情不足が考えられます。」と言われてしまっているというのがあって、これはいか

がなものかと。言い方が難しいな、指導のあり方は難しいなとちょっと思ったものですから、それが一つあったので、その辺ちょっと踏まえていただきたいと思います。

それから、やっぱり同じく、この宮城県学力・学習状況調査の結果の小学校の国語のところなんですけれども、やはりこれも家庭訪問でのやりとりの一つだったんですけれども、言語に、読解力、要するに読むという力がものすごく劣っていると言われたりとか、それで、そのところだけ、国語だけほかの教室に行って受けたらいかがですかと。その特殊の指導、個別指導の方を受けたらいかがですかという指導を受けたりというのが耳に入ってきていて、お母さんが突然に言われるものだから、家庭訪問で。うちの子供は一体どういうふうになっているんだかと不安がって、連絡をよこすんですね。

もう少し様子を見られたらどうでしょうと私は話すんですけれども、その子供を知らないわけじゃないので、知っていて言ったんですけれども、力がありますと、能力的に何ら問題はないと私は思っていますけれども、現場ではどのような問題を先生方が抱えていらっしゃるのかはちょっとわかりかねるのでという返事をしたんですけれども、実際、そのために受けている指導が国語の漢字書き取りをノートに一日5枚とか6枚やりなさいというやり方なんですよ。驚いたのは、それとこれは関係あるかなという。何か指導が、何を先生たちは迷っているんだろうかと、平均値を上げるために。ほかの子供たちもそうなのと言ったら、そう、一日にノート5枚か6枚の漢字をがっと思書くのが勉強だと。

いや、書くのはわかりますよ。書いて覚えるというのはよくわかるんですけれども、それを丁寧にぐちゃぐちゃと書いているんですよ。でも、私、これが勉強なのかなと思ったりして、ちょっと現場との温度差と先ほどおっしゃって、子供たちとの温度差というのがもう私毎回見てとるものですから、ご説明いただいたことが本当によくわかるんですよ。教師側はさせると、先生方はこんなふうに頑張らせていますと。だけれども、子供たちは、それを学習と捉えていない、考える力とは捉えていない、やらされていると。考える力をどこで養っているんだろうという一抹の不安を私は覚えるものですから、その辺を学校の先生方がどのようにこれから考えられるのかなというのをちょっと疑問に思っていました。

○委員長（阿部邦英君） では、よろしいですか。

○教育長（境 直彦君） 学力向上の一番のポイントは教師の指導力なので、そこが一番最初なので。だから、今の対応でも多分、私もまだ詳しいデータはわかっていないのに言えないんですけれども、最初にお話しした被災した家庭の家族の状況等は私も具体にはわかりませんが、ただ、ここ数年データはとっているんで、その子がどういう状況かというのを心の

ケアも、健康状況調査の国府台病院の絡みの多分データで出てきているのではないのか。それが、ただ、言い方としてストレートに伝えていいかどうかというのは別問題なので、それはきちんと家庭を考慮した上で、逆にそれから、終わりではなくて、それよりも前と後とをきちんとつながりを持った体制を家庭ととらなくてはいけないということはあるかと思います。

来週、校長会がありますので、課長と私がしっかり話をしたいと思います。

○委員長（阿部邦英君） よろしくお願ひします。

ほかに各課長方からございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（阿部邦英君） それでは、なければ、次回8月の定例会等についてお願いいたします。

○事務局（石井透公君） 次回、8月の定例会につきましては、8月24日水曜日、午後1時半から開催する予定でございます。場所につきましては、市役所本庁舎4階の庁議室で開催いたします。よろしくお願ひいたします。

○委員長（阿部邦英君） では、よろしくお願ひいたします。

以上をもちまして、本日の定例会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

午後 3時55分閉会

---

教育委員長 阿 部 邦 英  
署名委員 杉 山 昌 行